

令和6年度

第1回茨木市認知症初期集中支援チーム検討委員会

会議録

会 議 録

会議の名称	令和6年度第1回 茨木市認知症初期集中支援チーム検討委員会
開催日時	令和6年8月28日（水）午後2時～午後3時
開催場所	茨木市役所 南館10階大会議室
委員長	山田委員
副委員長	中島委員
出席者	<p>【委員会委員】 山田委員、中島委員、園田委員、岡田委員、宮崎委員、角野委員、井澤委員、長村委員</p> <p>【市職員等】 森岡福祉部長 福祉総合相談課：澤田次長、杉林3グループ長、西浦（チーム員） 神田保健師長、松岡（チーム専門医） 奥田医師 健康づくり課：永友課長代理 長寿介護課：女鹿主幹 地域包括支援センター：藤井（三島・庄栄） 内海（玉島・葦原） 認知症地域支援推進員：高橋</p>
欠席者	なし
傍聴者	1人
報告事項 議題（案件）	<p>(1) 副委員長の選出 (2) 茨木市総合保健福祉計画、茨木市認知症施策について (3) 令和5年度認知症初期集中支援チーム活動実績について (4) その他 今後の予定・連絡事項等</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 委員名簿 ・ 配席表 ・ 茨木市認知症初期集中支援チーム検討委員会規則 ・ 茨木市審議会等の会議の公開に関する指針 ・ 【資料1】 高齢者保健福祉計画（第10次） 介護保険事業計画（第9期）の一部抜粋 ・ 【資料2】 令和6年度茨木市認知症施策 ・ 【資料3】 令和5年度認知症初期集中支援チーム活動実績

そ の 他	<p>本会議では、以下の略称で表記している。</p> <p>チーム：認知症初期集中支援チーム</p> <p>検討委員会：認知症初期集中支援チーム検討委員会</p>
議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
事務局（澤田）	<p>令和6年度第1回 茨木市認知症初期集中支援チーム検討委員会の開催にあたり、資料の確認をお願いします。</p>
事務局（森岡）	<p>福祉部長挨拶</p> <p>あいさつ</p>
事務局（澤田）	<p>委員紹介</p> <p>委員名簿で紹介 事務局は配席表のとおり</p>
山田委員長	<p>本委員会規則第6条に基づき、議事の進行を山田委員長にお願いします。</p> <p>開会</p> <p>令和6年度第1回 茨木市認知症初期集中支援チーム検討委員会を開催する。本日の委員の出席状況について、事務局からの報告を求める。</p>
事務局（杉林）	<p>本日は、検討委員会委員8人中、8人の出席をいただいている。過半数以上の出席であるため、本委員会規則第6条第2項により、会議は成立している。</p> <p>傍聴人は、1人。</p> <p>これまで副委員長を務めていただいていた杉野委員の退任に伴い、茨木市医師会からは園田医師に委員を務めていただく。</p>
園田委員	<p>あいさつ</p>
山田委員長	<p>1. 副委員長の選出</p> <p>副委員長の選出</p> <p>副委員長の選出を委員に囃る。</p>

岡田委員	中島委員にお願いしたい。
山田委員長	各委員に異議がないことを確認。 中島委員を副委員長に決定。
事務局(杉林)	審議会の公開 会議の公開の基準に基づき、原則公開とし、個人に関する情報を取り扱う議題については非公開としたい。
山田委員長	各委員に異議がないことを確認。 会議については原則公開とし、個人に関する情報を取り扱う議題については非公開とする。
山田委員長	続けて事務局へ、個人情報の取り扱いの説明を求める。
事務局(杉林)	本日は個人情報を取り扱う議題は予定していない。 会議録の作成のために録音する。
事務局(神田)	2. 茨木市総合保健福祉計画、茨木市認知症施策について 資料1、2の説明
山田委員長	ただ今の説明について、質問等はいかがか。
宮崎委員	認知症本人ミーティングは、どのように認知症の方を呼んで、どのくらいの人数が来られたか。
事務局(松岡)	本人ミーティングは、ケアマネジャーから社会参加を希望している当事者について相談を受け、それを茨木市認知症地域支援推進員につないだことがきっかけでご本人たちが集える場として始まった。同様にケアマネジャーから相談を受けた方や私たちが相談対応して案内した方、家族教室での周知をきっかけとした方などが、月数人来ている。人数は少ないが、顔なじみの関係ができてきた。
宮崎委員	認知症本人ミーティングに参加したい方をどのように紹介したらよいか。

事務局 (松岡)	<p>現在、茨木市役所、藍野病院の2か所を開催場所としている。どちらかにご連絡をください。ちらしを配布したり、広報いばらきに2か月に1回掲載したりしている。該当される方がいれば、ぜひ紹介していただきたい。</p>
中島委員	<p>認知症サポーター養成講座のうちジュニアサポーター養成講座について、今年度は予定されているか。</p>
事務局 (松岡)	<p>ジュニアサポーター養成講座に関して、中学生については、今年度はまだない状態。小学生については、地域包括支援センターが地域の小学校に声かけをして、今年度放課後こども教室で開催を希望しているところがある。</p>
中島委員	<p>中学2年生の秋に職場体験がある。介護施設や病院に行く生徒が多いので、その前に講座を受けて認知症について理解してから行くにより勉強になるのではと思う。特に、中学2年生を対象とした開催を検討いただきたい。</p>
山田委員長	<p>他に質問はいかがか。</p>
長村委員	<p>茨木童子見守りシールについて。昨年度枚数制限があるためもっと活用できるように検討をお願いしていた。今年度、枚数制限がなくなったので活用している。ただ、アイロンを使用する貼り付けは、手間がかかるという声をまだ聞く。名称にシールとあるとおり、簡単に貼れるようになれば、さらに気軽に使ってもらえるのではないか。検討いただきたい。また、見守りシール以外にも、ストラップやキーホルダー等取り付けられるものがあればいいという声も、ケアマネジャーから聞いているので、この場を借りて意見する。</p>
事務局 (松岡)	<p>見守りシールについては、今年度当初に地域包括支援センターに協力いただき、シールの活用確認と、必要に応じて追加で渡してもらった。次回以降は、圧をかけるだけでよいタイプのシールを渡す予定としている。</p>
山田委員長	<p>他に質問はいかがか。</p>

角野委員	<p>認知症サポーター養成講座について、平成20年から令和6年3月までの実績が2万5千人で、今年度の計画は2万9千人となっているが、どのような方法で4千人増を目指すのか。また、キャラバン・メイト養成講座の機会も数が減ってきている。茨木市では、4千人をどのように、広げてゆくのか。</p>
事務局（松岡）	<p>認知症サポーターの計画数については、単年度計画ではなくて、複数年の計画の中で令和6年度中に延べ2万9千人としている。認知症サポーターを養成するにあたっては、今は葦原多世代交流センターに協力いただき、毎月講座を開催できるような形にし、広報いばらき等で周知している。キャラバン・メイト養成講座に関しては、大阪府が令和5年度から年4回開催している。令和6年度も1回目は、茨木市から8人が受講できた。キャラバン・メイト向けの研修も年1回は開催したいと考えている。</p>
角野委員	<p>高槻市は認知症サポーターを対象に、実際の活動に向けた講座を開催している。茨木市はどうか。</p>
事務局（松岡）	<p>茨木市でも年1回開催している。今年度は実際の活動場所として、いばらきオレンジかふえの1つである、投げ所おれんじカフェ元町にて、茨木市認知症地域支援推進員が中心ではあるが、認知症サポーターにも運営に協力していただいている。</p>
山田委員長	<p>他に質問はいかがか。</p>
園田委員	<p>【資料1-P140】茨木市モデルのICTの活用について。MCS（メディカルケアステーション）の活用状況について把握されているか。患者情報等はクラウドにあればとりやすい。MCSはもっと活用されていいと考えている。どのくらい普及しているか。</p>
事務局（澤田）	<p>市では把握できていない。改めてお伝えする。</p>
中島委員	<p>MCSについて、茨木市医師会でも使用を推奨している。MCSの利点は、非常にセキュリティが高いこと、多職種で利用できること。また、独居の方の場合、別居の家族がMCSに入ると本人の状況がよくわかる。</p>

	<p>しかし、診療所でのパソコン操作が必要になるなど、導入するためには、ある一定のハードルがあるため、在宅医療を行う医師の中には、セキュリティは低いですが、その場ですぐ活用できる SNS を使用している人もいます。</p>
山田委員長	<p>他に質問はいかがか。(他委員より質問なし) 他に質問、意見がないようなので、以上とする。</p>
事務局(松岡)	<p>3. 令和5年度茨木市認知症初期集中支援チーム活動実績について 資料3の説明</p>
山田委員長	<p>ただ今の説明について、質問等はいかがか。</p>
井澤委員	<p>まとめの最後に、支援対象事業事案情報提供の介護保険に繋がっていなかった対象者のうち、半数以上が申請をしたとあるが、残り半数の未申請の方々に対し、その後の経過確認はしているのか。</p>
事務局(松岡)	<p>全員は追えていないが、その後の連絡を基本的には1回はするようにしているが、もう少し様子を見るなどの返答が多い。結果的に次に2回目の情報提供が来て、再度、連絡をするという方もいる。</p>
井澤委員	<p>ケアマネジャーの意見として、関わる機会を増やすとその後の支援に繋がる可能性も増えるので、対応を続けてほしい。</p>
山田委員長	<p>他に質問等はいかがか。</p>
角野委員	<p>初期集中支援チーム対象者の8名のうち、AD(アルツハイマー型認知症)と特定された方が1名で、他の方はどのような疾患だったのか。医療には繋がっているのか、どのようなことで医療に繋がっているのか。介入期間が141日と長い方もおられるようなので手厚く対応されていると感じた。</p>
事務局(松岡)	<p>医療に繋がったが、認知症と診断されなかった方や他の精神疾患の診断を受けた方がいる。また、モニタリングの時点では診断がつかなかったが、その後、MCI(軽度認知障害)と診断された方もいる。</p>

山田委員	他に質問等はいかがか。
長村委員	対応終了後2か月後にモニタリングを行っているということだが、繋がりが確認できたら、完全に対応終了ということか。
事務局(松岡)	モニタリング時にその後の支援者の繋がりが確認できれば終結となる。昨年度1件はモニタリングで再介入し、介護サービスに繋げて終結した。
山田委員	他に質問等はいかがか。
園田委員	日本全国に初期集中支援チームがあり、茨木市の令和5年度の相談受付が144件とあるが、30万都市で大体平均はどのぐらいか。市民がどれだけ知っているかについて興味があるため、教えてほしい。
事務局(松岡)	後日、回答する。
山田委員長	他に質問はいかがか。(他委員より質問なし) 他に質問、意見がないようなので、以上とする。
事務局(澤田)	4. その他 今後の予定・連絡事項等 次回の検討委員会の開催は、来年の1月頃を予定。日程等の詳細については、改めて連絡させていただく。
山田委員長	閉会